

令和5年度 東京都立多摩高等学校学校経営計画 令和5年4月1日

1 スクール・ミッション

学習・学校行事・部活動や地域連携等を通して、主体的にかつ相互に成長し続けることで、集団への帰属意識や他者への思いやりの心を育み、社会に貢献できる人材を育成します。

2 教育目標

1 知、徳、体の調和のとれた発達をはかり、豊かな人間性を培う。
2 生涯教育、生涯学習の基礎の確立をはかり、社会の変化に主体的に対応できる能力を育てる。
3 社会の一員としての義務と責任を自覚し、主体的に貢献できる人間を育成する。

(1) グラデュエーション・ポリシー(卒業までに身に付ける力)
卒業後に役立つ人生100年を生き抜く3つの力と12の能力を育成
○前に踏み出す力: 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組み力
主体性・働きかけ力・実行力
○考え抜く力: 疑問を持ち、考え抜く力 課題発見力・計画力・創造力
○チームで働く力: 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力
発信力・傾聴力・柔軟力・規律性・情報把握力・ストレスコントロール力

(2) カリキュラム・ポリシー(教育の方針)～生徒が相互に成長し続ける学校～
○生徒が参加する分ける授業を展開し、授業評価を活用して改善する。○スモールステップによる達成感を育み、自学自習の意識を高揚する。○組織的なキャリア教育を通じ、生徒の学力向上、自律的な生活態度の育成及び主体的な進路希望実現を支援する。○学校行事や委員会活動・部活動等を通して、成功体験を積み、他者との関わり方を育てる。○ボランティア活動等の地域貢献活動を通じ、社会との関わりを深め、主体的に社会に参画する力を養う。○異文化交流等を通じて、相互理解を深め多様性を尊重する精神を醸成する。○組織的な教育相談体制を整え、いじめや体罰のない明るく、安全・安心に生活できる学校として、インクルーシブの精神を養う。

(3) アドミッション・ポリシー(求める生徒像)
本校の教育方針を理解し、本校への入学の意志が明確な生徒
○自身の成長のために学び続けたいに役立てよう、進路実現への取組ができる生徒
○部活動・生徒会活動・学校行事・ボランティア活動を通して、学校生活に熱心に取り組むことができ、活動を通して社会性を身に付けることができる生徒
○社会のルール・マナーを守り他者や地域の信頼を得ることができる生徒

4 中期目標と方策

I 学習指導 【目標】分かる、学びたくなる授業実践 【方策】1 生徒が分かったことを実感できる授業の実践 2 生徒自ら学びたくなる指導 3 デジタル技術を活用した学習の推進 4 授業評価に基づく授業改善 5 OJTによる授業改善プロジェクト推進	II 生活指導 【目標】規範意識と社会性の醸成 【方策】1 自主自律の生活態度の育成 2 いじめや体罰のない明るい学校の実現 3 国際理解教育、ボランティア精神の育成の充実 4 特別支援教育の充実	III 進路指導 【目標】キャリア教育の充実による希望進路の実現 【方策】1 進路指導計画に基づいたキャリア教育の実践 2 関係機関・地域と連携したキャリア教育の実践 3 キャリアアップによる自信の高揚	IV 特別活動 【目標】多摩高校への帰属意識・貢献意識の高揚 【方策】1 感動体験による意識の高揚 2 地域と連携した意識の高揚 3 100周年記念式典の計画的な準備	V 心身の健康づくり 【目標】健康づくりの推進、安全・安心に生活できる学校の実現 【方策】1 感染防止対策の徹底 2 体力向上の取組 3 個に応じた安全・安心に生活できる学校の実現	VI 募集・広報活動 【目標】保護者等との連携推進、広報活動の推進 【方策】1 保護者等への情報発信の強化 2 広報活動の充実・改善	VII 学校経営・組織体制 【目標】より良くしていくこととする「組織風土」づくり 【方策】1 各委員会の充実 2 校内研修の充実 3 法規法令の遵守 4 経営企画室と連携し組織的に業務効率の良い体制づくり 5 各種規程の見直し
--	--	---	---	--	--	---

5 今年度の取組目標と方策 (1) 教育活動の目標と方策

(2) 重点目標と方策

領域	目標	方策	数値目標等
I 学習指導	目標	「1 生徒が分かったことが実感できる授業」「2 生徒が自ら学びたくなる指導」「3 デジタル技術を活用した学習の実践」「4 授業評価等に基づいた継続的な授業改善」	【数値目標等】 学習指導に対する生徒の肯定的意見の割合 83%以上(前年度 84.5%(10月) 82.9%(2月)) 教員の相互授業参観の実施率年 2回 100% 授業でICT 機器等を活用した教員の割合 95%以上(前年度 90.9%(10月) 93.9%(2月)) 授業力改善に向けた校内研修の実施 年3回
	方策	1 目標の明確化と授業の振り返りにより生徒が身に付けたことを実感させる授業実践 2 探究活動を取り入れ生徒が主体的に学ぼうとする意欲を引き出す指導計画立案 3 一人1台端末を踏まえた教材開発によるデジタル技術を活用した学習活動の促進 4 授業改善を目指した生徒による授業評価と相互授業観察の実施。 5 学力向上研究校指定校(校内寺子屋)として、多摩研、教科会、教科主任会による組織的な授業力向上。	
II 生活指導	目標	「1 自主自律の心を育み、行動する生徒の育成」「2 いじめや体罰のない、思いやりあふれる学校の実現」「3 多様な人と関わり合う教育の充実」「4 特別支援教育の理解・推進」	【数値目標等】 始業時着席や授業態度等の授業規律の遵守率 90%以上(新規) 校則順守に対する生徒の肯定的意見の割合 85%以上(前年度 87.1%(10月) 85.8%(2月))
	方策	1 全校体制で、遅刻、礼儀作法、授業規律及び校内清掃を指導し、自律する生徒を育成。2 体罰の禁止・根絶や年3回のアンケート実施でいじめの未然防止・早期発見・早期対応に関する認識を全ての関係者で共有。3 教職員の校則見直しに向けた取組と生徒に考えさせる指導の実践。4 ケース会議の実施により、生徒に寄り添った生活指導を実施 1 3年間を見通した進路指導計画に基づくキャリア教育の推進「2 関係機関・地域と連携したキャリア教育の拡充」「3 各種検定試験受験の支援体制の整備と促進」	
III 進路指導	目標	「1 3年間を見通した進路指導計画に基づくキャリア教育の推進」「2 関係機関・地域と連携したキャリア教育の拡充」「3 各種検定試験受験の支援体制の整備と促進」	【数値目標等】 進路決定率 90%の維持(前年度 91.2%) 各種検定の受検者 150名以上、うち3級以上の合格 60名以上 (前年度受検者 137名、3級以上合格者 43名)
	方策	1 改訂「進路の手引き」を活用し、社会の一員としてのキャリア教育の推進。生徒の進路希望に関する3年間を見通した進路指導部と各学年による組織的な指導体制の推進 2 関係機関と連携して、インターンシップ、森林保全活動、上級学校訪問及び進路講演会などSTEAM教育の視点を取り入れた教育を展開。地域とのネットワーク等と連携 3 スキルアップ推進校としてグローバルスキル講座、デジタルスキル講座、コミュニケーションスキル講座を実施	
IV 特別活動	目標	「1 感動体験による帰属意識や貢献意識の高揚」「2 地域連携を通じた社会貢献」「3 100周年記念式典の成功」	【数値目標等】 地域と連携した活動への参加に対する生徒の肯定的意見の割合 70%以上(新規) 学校行事に対する生徒の肯定的意見の割合 75%以上(前年度 70.7%(10月) 73.6%(2月))
	方策	1 学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動の生徒による主体的な運営。主権者教育の活性化 2 ボランティア活動、「東京の教育資源(森林・林業)を活用した教育活動推進校」として、森林保全活動、異文化交流等の推進による社会性・人間性の向上。地域清掃を推進 3 100周年記念式典を在校生・卒業生・地域住民で連携して開催。	
V 健康づくり	目標	「1 体育的な学校行事を活用した体力向上の取組」「2 生徒一人一人に応じた安全・安心に生活できる学校の実現」	【数値目標等】 生徒理解に基づいた適切な手立てで、中途退学者の減少。
	方策	1 自立支援継続派遣校として学校医、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーとの連携を強化し、生徒の悩み、困り感の早期発見と共有で、自殺の未然防止、不登校の生徒への的確な対応のための校内の組織体制を構築 2 「TOKYOACTIVE PLAN for students」に基づいた、生徒が豊かなスポーツライフを実現しようとする意識の向上	1 スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー等との組織的な相談体制、外部機関へ適切につなげる仕組みを構築 2 「エンジョイスポーツプロジェクト」や体育的な学校行事(奥多摩ウォーキング等)の実施による、体力向上への意識の向上
VI 広報活動	目標	「1 広報及び授業紹介動画コンテンツの開発による広報活動の応募倍率の向上」「2 検証に基づいた広報活動の改善」	【数値目標等】 推薦の応募倍率 1.80倍以上、学力検査の応募倍率 1.00倍以上 (前年度推薦 1.63倍、学力検査一次 0.66倍)
	方策	1 学校ホームページの更新回数向上のための校内組織の構築と学校公式チャンネルの開発と運用、学校パンフレットの更なる改善 2 地域の中学校訪問の方法や内容の改善。	1 学校ホームページに関する研修、学校公式動画の活用で学校見学会・学校説明会の参加者の向上、学校パンフレットの改善 2 出前授業や中学校での学校説明会の実施など地域の中学校訪問の実施と内容の改善。
VII 学校経営・組織体制	目標	「1 企画調整会議と分掌・学年会議、委員会のマトリックスによる組織体制の充実」「2 校内研修の充実」「3 法規法令の遵守」「4 経営企画室と一体となった組織的に業務効率の良い体制づくり」「5 根拠に基づいた校内規定の見直し」	【数値目標等】 より良くしていくこととする「組織風土」づくりを具現化する。
	方策	1 企画調整会議と分掌・学年会議、各委員会の組織的な運営 2 「多摩研(若手教員)」や将来構想委員会による学校改革を推進。教職員の学校マネジメント能力の向上。3 高い倫理観をもった教職員集団の醸成と法規法令の遵守(服務事故ゼロ)を達成し、生徒・保護者の信頼を確立。体罰や不適切な指導を絶対に見せさせない。4 統合型校務支援システムの活用等によるライフ・ワーク・バランスの推進。計画的・効率的に予算執行。施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕を徹底。引継ぎ及び予算を意識した業務進行等、行政職員から、効率向上のための提言を促進。5 学校経営計画及び調査等に基づいた、各種規程の見直し。	1 企画調整会議と分掌・学年会議、各委員会の実効的な運営 2 「多摩研(若手教員)」や将来構想委員会、プロジェクトチームから、具体的な課題とその改善策を検討し企画調整会議に提示。 3 校内研修等により法規法令の遵守の意識を向上する。 4 自律経営推進予算や学校徴収金、生徒会予算の円滑な運用や教職員の超過勤務縮減の意識の向上。5 校内規定の改善